

合理的なフランス人に学ぶ3つの「ない」



非常に合理的かつシンプルに生きるフランス人。今回はそんな彼らの生き方から学びたい、3つの「ない」をご紹介します。

流行に流され「ない」



「友人達が持っているから私も欲しいな」「あの有名人がテレビで紹介してたから買ってみよう」フランスではまずこういった人はいません。

。そんなフランスのお店では、新商品や「あると便利なグッズ類」もほとんど見かけません。今使っている物で特に不便を感じていなければ、ちょっと便利というだけで新商品に飛びつくようなことがないからです。電話や電化製品などは顕著にその傾向が見られます。

一般的なフランス人は、だいたい毎日同じ物を食べ、電話や電化製品は壊れて修理ができなくなるまで使うのが普通です。－

見、質素に見える彼らの生活ですが、バカンスなど

本当に楽しみたい「モ

ノ」「コト」には、それなりに時間とお金を

費やすのが、フランス人の変わらぬ「流行」なのです。

入学式や卒業式・入社式が「ない」

日本では幼稚園から専門学校や大学まで、入学と卒業の際に大がかりな「式」があります。さらに社会人になると入社式なるものもあります。しかしこれらにかかる自身の洋服代ほか、式に出席する親の出費まで含めると費用はばかになりません。わざわざブティックまで出かけてドレスを選び、スケジュールを調整して式に出席する・・・時間も然りです。もちろん主催する側にも同じことが言えます。

驚くことにフランスには入学式・卒業式が一切ありません。初めて子供を幼稚園に入れる親にとっては、若干物足りない気もしますが、共稼ぎの多いフランスの親にとっては非常にありがたいこと。式のために会社を休む必要がないからです。また主催側である学校の先生達も、式を準備するために時間を費やさなくて良い分、自身の仕事に集中することができます。つまり学校の先生は、一貫して勉強を教える「先生」でいけば良いのです。

ちなみに日本の幼稚園や小学校のように、母親が上履き入れを手作りすることがなければ、お弁当を持たせる必要もありません。入園・入学するその日が来たら、手頃な鞆の中に最低限のお着替え一式を入れ

て教室まで連れて行く、それだ

けで良いのです。フランスの方が日本に比べて**親の負担が少ない**のは明らかです。

(入園の際、ファイルや小物入れなどを園から指示され、準備しなければいけない場合があります。)

オモテナシやオカエシが「ない」

今日はお客様が来る。そうすると、つつい張り切ってしまうのが日本人。もちろん来る相手にもよりますが、できるだけ家を掃除して、喜んでもらえるように凝ったお料理を準備するのが日本流の「オモテナシ」でしょうか。これに対して、フランス人は非常に気軽でシンプルです。友人の友人(=知らない人)であっても「ついでに」招待してしまう、なんてこともしょっちゅうです。そんな急に呼んだりして、準備は間に合うの？大変じゃないのかな？・・・と心配してしまいましたが、フランス人にとってお客様を迎える準備など「ない」に等しいことなのです。

前菜は、保存がきくシャルキュトゥリーと呼ばれる豚肉燻製品の類。なければポテトチップスかオリーブなど。そしてワイン。メインはスーパーなどで鳥の丸焼きとサラダ(レタスのみ)を買ってくる。あとは冷蔵庫の中にある材料で簡単なものを作れば「急な招待」の準備も完了です。

しかもこんなに簡単で質素なお料理でも、フランス人にかかればとってもゴージャスな食事会に

早変わりです。フランス人の「おもてなし」は料理の質などではなく、来てくれた友人達と飲んで笑って楽しい時間を過ごすことなのです。そして招待された友人達は「次は自分が招待しないと・・・」といった「オカエシ」の義務を感じることもありません。呼んだ方も呼ばれた方も**とにかく気軽にシンプルに、そして思いっきり楽しい時間を過ごす**のがフランス流なのです。

まとめ

日本の社会に暮らしているとつい周りを気にして窮屈だったり、不自由だったり……。それに対してフランス人は他人に流されず、本質を見極め、楽しいと思える物事に全力を注ぎます。私たちもフランス人の合理性を見習って、私たちなりの「ない」を見つければ、もっとシンプルで自由な生き方ができるかもしれませんね。

執筆 Lio

オンラインフランス語学校

ENSEMBLE EN FRANÇAIS

アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

